

書評

《理学療法NAVI》 リスクに備えて臨床に活かす 理学療法にすぐに役立つ薬の知識

藤原俊之(監), 高橋哲也(編)

A5判・352頁
定価: 3,740円(本体3,400円+税10%)
医学書院, 2021年



理学療法士の視点で楽しみながら 薬剤の学習ができる

[評者] 加藤倫卓 常葉大学

本書は整形外科の疾患, 脳神経疾患, 内部疾患, 生活習慣病などのうち, 理学療法士が臨床でよく担当する疾患や病態を厳選し, 実際の臨床現場でのリハビリテーション医療に生かすための薬剤の知識の理解に焦点を絞って解説している。

病態ごとに具体的な症例を提示し, その一般的な特徴から, 理学療法を施行するにあたっての医師からのリクエスト, そして, 理学療法を行うにあたっての薬剤の注意点と効果的な進め方を, 医師と理学療法士のそれぞれの視点から説明しており, すべての理学療法士にとって参考になる。また, 全項目に共通して, 多職種間で行われる臨床上でやりとりがイラ

ストを交えて記載されており大変読みやすく, その内容も医師から理学療法士へのサイン, 問いかけ, 助言, 心の声など多彩に表現されており臨場感が感じられる。また, 処方された薬剤がいつまで使われるか, 病期による病態や症状の変化による薬剤の調整, 理学療法中の事故を防ぐための中止基準やリスクマネジメント, そして理学療法上のポイントがわかりやすく記載されている。定評のある薬剤の専門書は詳細な解説が魅力ではあるが, 理学療法士にとっては難解なものもある。しかし, 本書はあくまで理学療法士の視点に立った内容となっており, このような形態の本は今までなかったと思われ, 楽しみながら学習する

ことができるのも魅力である。

すべての理学療法士において, 症例の評価の1つとして薬剤のチェックをすると思うが, その際にはまずは本書を本棚から取り出し, ぜひ, 病態と合わせてその薬剤について調べてもらいたい。また, 医師, 看護師, 薬剤師との円滑なチーム医療, そして情報交換のための基礎的な薬剤の知識を本書によって身につけてほしいと考える。本書に記載されていることが理学療法士の共通知識になれば, 理学療法の水準が一段高くなり, 今よりもリハビリテーションの現場が実りあるものになることは間違いのない。